

## 2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立階上小学校

採択活動名

「豊かな海，気仙沼」見つめよう，考えよう，気仙沼の水産業

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 自然大好き！ぼくらの階上（岩井崎の秘密を探ろう）	3	総合
2. 豊かな海について調べよう・考えよう	5	総合
3. 豊かな海に関わる環境について考えよう	5	総合・特活
4. 水産業のさかんな地域	5	総合・社会
5. 気仙沼のスローフードを知ろう	6	総合・特活

取り組みの概要

本校の海洋教育は、低学年の生活科において、地域の自然に触れ、そのよさに気付くことを土台とし、中・高学年において郷土の豊かな自然環境や生活を営む人々に関わり合うことにつなげている。そこから「郷土の環境や食文化・人とのかかわりを見つめ、自分の在り方を考え」、「持続可能な郷土の担い手を育む」ことを、教科横断的な学習を通して理解を深めながら取り組んでいる。

そこで、地域の主たる産業である「水産業」と自分たちの暮らしが、豊かな自然環境を生かしながら、人々の工夫や努力によって支えられていることに気付き、海と共に生き、ふるさと気仙沼・階上が持続可能な地域になるために、様々な今日的課題を創造的に考え、探究し、発信しようとする児童の育成を目指している。

## 【「A：海と出会い，なかよくなる」学習活動】

○「自然大好き！ぼくらの階上」「豊かな海について調べよう・考えよう」

学区内にある気仙沼の観光名所「岩井崎」へ行き、潮だまりで生物調査を行った。今年度は6月に3年生と5年生が活動した。3年生は「海の豊かさ」について体験を通して実感し、5年生は「海の豊かさ」を実感するとともに、社会問題になっている「海洋ごみ」の実際を知る機会となった。岩井崎での調査前には、野外宿泊学習で一関のブナ林を散策したので、関連付けながら考えることができた。海岸に打ち上げられているごみを収集し、学校で分別をすると、外国から流れてきたごみや生活ごみの多さに驚き、自分たちの生活と深く関わっていることを実感し、探究学習へつなぐことができた。

## 【「B：海の恵みを知る」学習活動】

○豊かな海に関わる環境について考えよう

海の豊かさの秘密を探るために、NPO法人「森は海の恋人」副理事長の畠山信氏から、養殖の牡蠣やホタテが育つためには、エサとなるプランクトンにとって必要な「栄養塩類」が必要であることを教えていただいた。その栄養は、海から遠く離れた森の腐葉土の中で作られることを知った。さらに、「豊かな海」につながる「豊かな森」を知るために、野外宿泊学習で訪れた一関市のブナの原生林を散策し、

森の中の腐葉土の感触を確かめた。また、腐葉土を作り出す土壌生物について、校庭の土と比較しながら調査したことにより、「豊かな森」から栄養分を含んだ水が川となって流れて「豊かな海」に注ぎ、気仙沼・階上の養殖業に大きな恩恵を与えていることへの理解を深めた。

### 【「D：海をいかす」学習活動】

#### ○水産業のさかんな地域（ワカメの養殖体験）

階上地区漁協青年部千尋会の御協力により、年間を通してワカメの養殖体験活動を行っている。この活動を通して、地元の特産品であるワカメの養殖業に携わる人々の思いに直接触れることができる。

ワカメの「種付け」「種ばさみ」「刈り取り」等の作業を体験することで地域を知り、また、海水温の上昇や自然災害などの環境が生育に大きな影響を及ぼすことを知る機会にもなった。

### 【E：海と生きる文化を重ね、伝える」学習活動】

#### ○伝統文化・虎舞体験

波路上明戸虎舞保存会の御協力により、「明戸虎舞」の手踊りや太鼓の打ちばやしの体験活動を行った。安全な船の航行や豊漁の願いが込められた伝統文化に触れ、地域のよさや地域の方々の思いに気付くことができた。練習した虎舞は、11月に行われた学習発表会で保護者に披露することで、学習したことを発信することができた。

#### ○気仙沼のスローフードを知ろう

気仙沼の地産地消をすすめる取組を調べるために、水産物販売・加工、製菓等の事業所を訪ね、その思いや工夫について知る機会を設定した。さらに、盛岡への学習旅行では、内陸の地域の地産地消について調べ、自分たちの地域と異なる産業を推進する地域と比較することで、地域への愛着と地域の食文化を継承することへの思いを深めた。

### 活動中の写真



〔ワカメの種付け体験〕



〔土壌生物調査〕



〔海洋ごみ調査（岩井崎）〕